

四国大学 第2回 富士正晴全国高校生文学賞

四国大学主催、徳島文学協会協賛で運営する「四国大学第二回富士正晴全国高校生文学賞」は、応募総数一八八作品の中から厳正な審査を行い、大賞、優秀賞、奨励賞の各賞が決定した。

大賞（一作）

「■■■■」【わく・ごっ・く】

原田仁海

東京都立大江戸高校【東京都】

優秀賞（三作）

「綿」 長谷川千成

岩手県立盛岡第一高校【岩手県】

「床と当たりくじ」 三浦麻名

岩手県立盛岡第三高校【岩手県】

「Femme fatale」 佐々木いづみ

湘南白百合学園高校【神奈川県】

大賞については、受賞者の言葉と受賞作品が、徳島文学協会発行の文芸雑誌『徳島文学』に掲載される。

最終選考は、四国大学文学部長阿部曜子氏、日本文学科教授佐々木義登氏、日本文学科講師館健一氏の三人によって行われた。昨年よりも作品の質は全体的に向上しており、最終選考作以外でも将来性を感じさせる作品が多数あったと評価された。今後も多くの高校生からの応募に期待したい。

選評の概要を下記に掲載する。

【選評】

大賞「■■■■」【わく・ごっ・く】

専門学校で絵を学ぶ主人公は帰宅途中、見たこともない神社に引き寄せられる。鳥居を抜けた先の日本家で、高校時代からの友人に出会う。二人の絵の才能やその関係性、実は主人公が友人を死に追いやったことが明かされていく。抽象的な筆致を用いながら、嫉妬や怨念といった伝統的な「和」のテイストを表現した挑戦的な作品。やや表現がペダンティックで幼さも感じるが、執拗なまでの細部へのこだわりが際立っていた。

優秀賞「綿」

生きづらさを抱えた主人公の唯一の楽しみは、河原で真つ白な「綿」を集めること。思春期の繊細でナイーブな内面が丁寧な筆致で描かれていた。

優秀賞「床と当たりくじ」

家庭環境により食事のままならない主人公の女子高生と、近所の駄菓子屋のおばあさんとの心の交流が描かれる。主人公がアイスの当たりを引く場面は秀逸。

優秀賞「Femme fatale」

地味な女子高生が、クラスでも際だって特徴的な生徒と親友になる物語。主人公が親友の髪を切るラストシーンが極めて印象的。

菊野啓さん

第十四回 銀華文学賞

優秀賞受賞

徳島文学協会の理事を務める菊野啓さんが、小説「ウイルスと木偶廻し」で第十四回銀華文学賞優秀賞を受賞した。

作品は、徳島県の山村で暮らす老女の視点から、様々な社会問題が描かれる。過去はハンセン病、現代は新型コロナウイルスという感染症に苦しむ人々への差別や、貧困、家族の関係性などが、方言を駆使して語られる。選考委員の五十嵐勉氏は「老年の意識に沿って過去の厚い堆積から意義深い洞察を紡ぎ出す技量は高い」と評している。

作品は「文芸思潮」第八二号に掲載されている。



文芸思潮 第82号

「民雄忌」ドリアン助川さんを迎えて

佐々木義登

ハンセン病と闘いながら創作活動を続けた、徳島県出身の作家北條民雄を顕彰する文学イベント「民雄忌」北條民雄を偲ぶ会（主催 徳島新聞社・阿南市文化会館）が二〇二一年十二月五日に阿南市文化会館夢ホールで開催された。小説「あん」で知られるドリアン助川さんをゲストに招き、基調講演とシンポジウムの二部構成で行われ、一三〇人近い聴衆が熱心に耳を傾けた。

前半の基調講演では、ドリアン助川さんが「あん」の創作秘話と絡めて、北條作品との出会いを語った。ハンセン病の元患者に対する差別をテーマにした小説「あん」は構想段階から難航し、何度も挫折したという。特に参考文献として読んだ「いのちの初夜」の内容のすさまじさに打ちのめされ、自分がハンセン病回復者の方の苦しみを描いてよいのかという思いに悩まされたと述べた。しかしその試練を乗り越えて完成した「あん」はベストセラーとなり、のちに樹木希林さんの主演で映画化もされた。

また大学で教鞭をとるドリアン助川さんは、授業で北條民雄の小説を取り上げて学生たちに研究させているという。やや若い部分のある学生が、北條作品と向き合うことで、明らかに精神的成長を遂げるのだそうだ。

後半のシンポジウムではドリアン助川さんのほかに、阿南市文化協会会長の小笠原憲四郎さん、北條民雄の評伝「吹雪

と細雨」の著者清原工さん、県立城北高校教員の大窪俊之さんにも登壇いただいた。

早熟な北條の文学性がどのような経緯で醸成されたのかというドリアン助川さんからの問いに対し、清原工さんが二つ上の兄から思想や哲学、文学を学ぶ機会があった可能性が高いという意見を述べた。

小笠原さんからは北條民雄顕彰活動の未来への展望が語られた。川端康成さえ嫉妬したほどの北條の文学的才能を私たちは郷土の誇りに思っているのではないかと。そして顕彰碑や文学碑の建立に向けて阿南市民中心の顕彰活動を続けていくべきとの発言があると会場からは拍手が起こった。

大窪さんからは、北條民雄を読むとき、ハンセン病の学習者となるか、文学的な切り口に終始するかで、接し方が分かれる傾向がある。この二つを別のものと考えず、もつと書き手の切実さと正面から向き合う読みを、あらゆる読者層に向けて開くべきではないか。そうすることで北條民雄は一部のファンに礼賛される対象から本当の意味で大衆に受け入れられる存在になるのではとの意見があった。



シンポジウムの様子

徳島新聞 阿波しらすぎ文学賞 作品募集

◆募集対象
日本語で書かれた広義の小説作品

※インターネットも含め未発表作品に限る。
※徳島ゆかりの地域や文化、歴史、産業、人物などを作中に登場させること。

◆募集資格
広く全国から募集

※年齢・性別・職業・国籍は問わない

◆原稿枚数
四百字詰の原稿用紙に十五枚以内

◆原稿書式
縦書きを原則とする
※パソコン・ワープロ原稿の場合は四百字詰原稿用紙での換算枚数を明記すること。
※表紙にタイトル・住所（徳島出身で県外在住の方はその旨記載）・氏名（ペンネームの場合は本名も）・年齢（生年月日）・職業・電話番号（あれば携帯電話も）を書き、作品にはページ番号をつけて右肩をハッチキスで綴じること。
※応募は一人一編。

◆募集締切
二〇二二年六月十日
当日消印有効

※応募作品の変更、訂正、差し替え、返却などは不可

詳細はホームページで

<https://www.t-bungaku.com/shirasagi/index.html>



◆応募先の宛先

〒770-0852
徳島新聞社事業部
阿波しらすぎ文学賞係

【メール】

awashirasagi.bungakusho@topics.or.jp

※原稿はテキスト形式（.txt）、またはワード(doc/docx)データ

◆賞金

阿波しらすぎ文学賞

徳島新聞賞 三十万円
徳島文学協会賞 十万円

徳島新聞賞は徳島出身又は徳島在住者から、徳島文学協会賞は二十五歳以下の応募者から選ばれる。

◆最終選考委員

芥川賞作家 吉村 萬吉氏
芥川賞作家 小山田 浩子氏

◆発表

二〇二二年八月

※受賞作は徳島新聞紙上および徳島新聞電子版に掲載

※受賞作は発表後、徳間書店の文芸誌「読楽」(二〇二二年十二月号)と、徳島文学協会の文芸誌「徳島文学」に掲載

※入賞作品の複製権（出版権を含む）、映像化権などの利用権（二次利用を含む）は徳島新聞社に帰属

【発刊しました！】

カクヲタノシム

2022 vol.3

みんなの文芸誌「カクヲタノシム」は、みんなで創る、みんなのための文芸誌です。

ご応募いただいた皆様の作品を、心を込めて編集委員が一冊の冊子にまとめました。

※第三号はご応募いただいた方と会員の皆様全員に無料進呈

創刊号と第二・三号を販売しています。税込六六〇円十送料。数に限りがありますのでお早めにお問い合わせください。



創刊号と第二号



第三号

【エッセイ】

「カクヲタノシム」と私

藤本好浩

私は「カクヲタノシム」に参加したのは第2号からである。第1号の時はとても小説など書ける状態ではなかった。父の死、それに伴う様々な諸手続きに加えて腰の手術とそれに伴う二か月の入院などがありとても文学どころの騒ぎではなかった。文学を志す者がそんな体たらくではなんだと怒られそうであるがそれがその時の私の実情だったのである。

父の一周忌が過ぎ、腰の状態も落ち着いたので徳島文学協会での当時やっていた小説広場に復帰することにした。私の書いた小説が粗上に上がった時などは、冷や汗たらたらものであった。そんな中、「カクヲタノシム」の2号を出すという話が出た。私はぜひ参加したいと思い、『吉村君』という短編を書いた。これは学生時代からの友達で、大ぼら吹きの大酒のみの話で、主人公がその友達に振り回されるという話である。興味のある方は「カクヲタノシム」の2号を参照してほしい。

そのころ世間では新型コロナウイルスが流行して小説広場も通信制となり、やがてブラッシュアップ小説講座へと衣替えをしていった。私は何度か小説を書い

ては様々な批評をいただいた。ありがたい話である。そして「カクヲタノシム」の3号を出すという話で私は高校時代の苦い体験をもとにして小説を書いた。ネタバレになってしまおうのでこれ以上は書かないが私の暗い過去を書いた。

今、心は阿波しらすぎ文学賞へと向かっている。それと同時に「カクヲタノシム」の第4号は何を書こうかと思案している最中である。私は小学生の頃は歴史少年だった。あの頃NHKで日本史探訪という番組をやっていた。その番組に出てきた司馬遼太郎のことを子供心に「かっこいい」と思った。また、大河ドラマは必ず見ていた。子供のころの夢は司馬遼太郎や吉川英治、海音寺潮五郎のような歴史作家になるのが夢であった。いつかは「カクヲタノシム」に歴史小説も書いてみたいというささやかな野望も持っている。今は自分の周囲のことを題材にした小説を書いているが司馬遼太郎には及ばなくても必ず歴史小説を書いて見せる。自分には残念ながら特技はない。しかし、歴史と文学に対する思いだけは誰にも負けないつもりである。乞うご期待をと言いたいところであるが世紀の大駄作を書いてしまうかもしれない。しかしいいじゃないか駄作でもという思いも心のどこかにはある。

【詩】

若いハートを持った君のために

糸矢圭一

君は耳が風を切る音が聞こえるか
冷たい風の中

全力疾走をするのだ

走りこめ、スピードをつけるため

走りこめ、持久力をつけるために

さあ、インターバルだ

君はもつともつと強くなれる

何故、僕がこんなことを言うと思う

「走りこみ」はスポーツの基本である

「走りこみ」をしつかりすれば

どんなスポーツをやっても

エースになれる

【俳句】

如月玲

白絹の如き春雨瀬戸の海

源平のかの古戦場春惜む

山道の眼下讃岐の町の春

「とと」：古代エジプト文明の知恵の神「トート」
に由来する。

掲載作品募集

会員のみなさんの積極的な応募をお待ちしております。

「ニューズレター」とと

原稿はワード形式で事務局へお送りください。(送信時には件名に「と」と掲載用」と入れてください)

- ◆エッセイ等 八百字以内
- ◆詩 四百字以内
- ◆短歌 三首以内
- ◆俳句 三句以内

「とと」は春、夏、秋の年三回発行ですが、一回につき掲載できるのは二〜四作品です。先着順で掲載できない場合は次号に回します。

ホームページ「作品広場」

原稿はワード形式で事務局へお送りください。小説、エッセイ、評論、児童文学、詩、俳句、短歌などオリジナルの作品に限ります。

最新掲載作品

詩「浮遊」 ミスミヤカ

作品、募集要項はホームページで
<https://www.t-bungaku.com/plaza.html>



文学イベント案内

ブラッシュアップ小説講座

小説を書いたことがない方や、初心者でアドバイスを受けながら小説を完成させたい方が対象です。

- 開催日 ①4月30日(土) ②7月16日(土)
全回21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員のみ対象
作品提出 3,000円／参加のみ 1,500円
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで ※先着順

公募実践対策小説講座

全国公募の文学賞への応募を目指す方が対象の講座です。受講に際しては、事前に作品を読ませていただき、クラス分けをさせていただく場合があります。

- 開催日 ①4月2日(土) ②6月18日(土)
全回21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員：作品提出3,000円／参加のみ1,500円
非会員：②の参加のみ2,500円 ※
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで(先着順)

小説エキスパート講座

全国公募の文学賞で最終選考程度の実力のある方やプロの作家を目指す方が対象の講座です。

- 開催日 5月21日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoom』による開催
- 参加費 会員：作品提出3,000円／参加のみ1,500円
非会員：参加のみ2,500円 ※
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 10人程度
- 締切 開催日の10日前まで(先着順)

※講座参加費と作品提出料は、後日とりまとめた上、請求書と払込取扱票を年3回お送りいたします。

※Zoomでの参加方法がわからない方に、無料でサポートしています。お気軽にお問い合わせください。

※非会員の方のご参加について

「公募実践対策講座」の②6月18日の回及び「小説エキスパート講座」について、非会員の方にもご参加いただけるようになりました。
ご参加希望の方は事務局までメールでお申込みください。

【ご参加の条件】

- ①Zoomの基本的な操作ができる
- ②事前に参加費を支払う(振込手数料はご負担ください)

通信句会

- 開催月 4月、7月
- 参加費 会員のみ対象 1,000円
- 講師 俳人・うっかり

※参加方法他

①投句3句受付《15日締切》

当季雑詠(その季節の俳句)を事務局にメールまたはハガキで投句ください。(一人3句まで・未発表作品に限る・ネット掲載も不可)「通信句会参加希望」●会員番号●お名前●投句を記載ください。後日事務局より投句をとりまとめ、投句一覧を参加会員へ送付いたします。

②選句3句・選評受付《25日締切》

投句一覧から3句を選び、選評を書いて事務局にメールまたはハガキでお送りください。

「通信句会選句」●会員番号●お名前●選句●選評を記載ください。後日事務局より、参加会員の選句と選評、講師の句評をまとめた句会報を参加会員へ送付いたします。

俳句講座

対面とZoom併用で句会を行います。投句は春の句を2句ですが、1句でも、聴講だけでも大丈夫です。

- 開催日 5月7日(土) 19時～20時30分
- 場所 徳島県立文学書道館
- 参加費 会員のみ対象 1,000円
- 講師 俳人・うっかり
- 締切 1週間前までに事務局へ投句

現代文学を考える

哲学を学ぶと世界の見え方が変わります。近代以降の哲学の流れを紐解きながら、現代文学について考える講座です。

- 開催日 6月4日(土) 21時～22時
- 開催方法 『Zoomミーティング』による開催
- 参加費 会員・非会員 1,500円
- 講師 作家・四国大学教授 佐々木義登
- 定員 15人程度
- 締切 開催日の10日前まで

詳細は徳島文学協会ホームページ
イベント情報をご覧ください

<https://www.t-bungaku.com/event.html>



ご入会や講座のお申込み・お問合せは
徳島文学協会事務局まで

〒771-3201 徳島県名西郡神山町阿野字方子 103
TEL : 080-6284-0296 society@t-bungaku.com
<https://www.t-bungaku.com/>

【文学賞等に受賞された方はお知らせください】

会員の皆様のご活躍を、「とと」や徳島文学協会のホームページでご紹介します。

小説、俳句、短歌などの文学賞を受賞された方は、事務局までメールでご連絡ください。賞の目安は授賞式に出席する程度です。

ホームページには小説のみ、「とと」には全てのジャンルの受賞実績を掲載予定です。(紙面の都合上、全てを掲載できない可能性があることをご了承ください)